

1 学校教育目標

「温かい心 強いからだ すぐれた知恵」

2 重点取組事項

- ・ICT活用によるアクティブラーニングの研究を深め、教師の授業力と児童の学力の向上を図る。
- ・道徳及び英語の教科化に係る課題に的確に対応するため、情報の共有と研修を丁寧に行う。
- ・業務改善を確実にいき、勤務時間の適正化を図ると同時に、児童に向き合う時間の確保し、心の通い合う教育活動を実現する。

3 学校教育に関する重点取組に対する自己評価

(基準 4:十分達成できた 3:達成できた 2:取り組んでいるが、成果は出ていない 1:取組が不十分である)

<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p>	<p>評価</p> <p>3.0</p>
<p>取組とその成果</p> <p>授業研究会(全員参加4回+学団内4回+1人1授業)を実施し、指導力向上と授業改善に努めた。また、全学年に「自学ノート」をもたせ、家庭学習の習慣確立を図った。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員が要支援児童についての情報を共有できた。今年度は通常学級に在籍する要支援児童数名に絞って研修会を行い、専門家の見立てや助言を受けることができた。</p> <p>栄養教諭を中心に、全学年において食の大切さを知らせ食生活を見直させる授業を行った。</p> <p>月2回朝会体育を実施し、年間を通して運動に親しませることができた。持久走大会や大縄大会などの行事で、体力増進への意欲づけをした。</p>	<p>課題と改善策</p> <p>全学年・全教科の授業で共通して意識すべき視点や進め方はあるのだが、普段の全ての授業で実践するかは個人の裁量になる。どこまで徹底できるかが課題である。</p> <p>将来につながる支援となるよう、指導の記録を丁寧にとることが課題である。個別の指導計画や教育支援計画等も活用し、継続的な指導・支援をしていく必要がある。ただ、要支援児が増加しており、マンパワーが不足しているのが現状である。</p> <p>朝会体育での体力向上には限界があること、また次年度朝学習を強化することから、朝会体育を廃止することにした。それに伴い、児童全員にマイボールを持たせて行う「園北ボール体操」は指導しないことを決定した。</p>

<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会との関わりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する</p>	<p>評価</p> <p>3.0</p>
<p>取組とその成果</p> <p>生徒指導部や児童会を中心に年間を通してあいさつ運動に取り組んだ。自分から、相手の顔を見てあいさつをする児童が増えた。</p> <p>教育活動全体で道徳性の育成に努めた。「心の教育講演会」には県警サイバー犯罪防止センターから講師を迎え、ネットの正しい使い方や危険について低・高学年向けに分けて話をしてもらった。</p> <p>学期に1度生活アンケートを実施し、気になる回答について面談で詳細を把握した。いじめ、もしくはいじめの芽を早期に見出し、対応することができた。</p> <p>5・6年生対象に、園田公民館の「社会教育地域力創生事業・生き方探究キャリア教育」を実施した。様々な職種の方から話を聞いたり質問したりすることで、将来の夢や進路についてある程度具体性をもって考えさせることができた。</p>	<p>課題と改善策</p> <p>基本的な生活習慣の確立には家庭の理解と協力が不可欠であり、担任からお願いしたり学校だより等で呼びかけたりしている。改善の傾向が見られない一部の児童に関しては辛抱強く働きかけていく。</p> <p>道徳の教科化に係る課題のひとつ、「評価」について、初年度は試行錯誤しながらの実施であった。次年度は一定の形を確立していかなければならない。</p> <p>いじめの認知基準を全教職員で確認する場と時間を何度も設定することが必要だと感じる。次年度は年度初めだけでなく、途中の時期にも機会をもちたい。</p> <p>キャリア教育は、他の課題教育がそうであるように、年間指導計画に基いて教科や行事の中で行うことになっている。授業をする教師がきちんと意識して取り組む必要がある。</p>

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る		3.3
(2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
<p>学校内外での従来の研修に加え、校内で特別支援教育や新しい教育課題に応えるための研修(プログラミング教育、英語指導法等)を行い、教職員一人一人の資質と能力の向上を図っている。</p> <p>勤務時間適正化を図ると同時に子どもと向き合う時間を確保する目的で業務改善の取組を進め、当たり前のように行ってきた行事の見直しをした。</p> <p>園北ふれあいまつりに地域の方に出店してもらったり囲碁ボールやゲームをいっしょに楽しんだりして今年も交流を図ることができた。「園田北児童みまもり協働連絡会」を年3回開催し、情報交換をしたり双方からの要望を出し合ったりした。</p>	<p>若手が多く中堅が少ないという年齢構成に加え、各学年2クラスしかないため、若手の育成が容易ではない。OJTを中心に行い、各自に責任と自覚をたせることで全体としての組織力向上を図っていく。</p> <p>学校における働き方改革に関する中教審答申の根幹となる精神を全教職員で共有し、開始当初の目的が明確でなく「例年通り」で行ってきた行事や活動を再検討した。</p> <p>地域の教育力を学校内に取り入れることができているので、地域学校協働活動推進員を通じてまちづくり協議会とつながっていききたい。地域に出て行くのが管理職だけになってしまっているのが課題だが、勤務のことを考えると改善しにくい問題である。</p>	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る		3.0
(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<p>毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所をいち早く発見することで事故を未然に防いできた。点検で不備が見つかった箇所は早急に補修するようにしている。登下校の指導に関しては、都度指導と毎学期の地区別集会での指導を行った。うち2回は集団登校指導員の保護者にも参加してもらっている。またPTAや安全ボランティア、地域の企業等の協力も得ながら登下校の安全に努めた。</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災等の教訓を生かす防災教育の推進を目標に、資料やDVDを活用しながら児童の防災意識を高めた。火災、地震の防災訓練及び引き渡し訓練を計画的に実施した。</p>	<p>安全点検では毎月補修が必要な箇所があがってくるが、校舎の老朽化のため補修が追いつかない上、経費の捻出が難しいものも多い。事務職員と相談し、優先順位をつけながら可能な策をひねり出している。不審者対応研修では、警官の扮装だとは分かっても腰が引けてしまう場面が多い。実際に危険人物が侵入したら訓練通りにできるか不安に感じている職員が多い。まずは水際対応が大切なので、そこに特化したシュミレーションや訓練を何回か行う必要がある。</p> <p>6月から7月にかけて発生した地震や台風等の自然災害は、様々な時と場所、場合を想定しておく必要性をつきつけた。その後全保護者に一斉下校時にどうさせるかの確認と、ミマモルメの登録確認を行った。</p>	

教育目標		評価
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.1
取組とその成果	課題と改善策	
<p>年度当初に、全ての教育活動が、教育目標である「温かい心・強いからだ・すぐれた知恵」の達成に向けてなされているのだということを全職員に意識させた。そして教育目標をもとに、学年目標や各課題教育の全体計画等が作成されるようにした。また、児童にも浸透するよう、教室に表示したり折に触れ分かりやすい言葉で伝えたりした。</p> <p>各学年、各分掌が目標具現化のための具体的な方策を策定し、教育活動の一貫性を図った。</p>	<p>学校目標を学年目標、クラス目標とともに各教室に掲示し、教職員にも児童にも常に意識させたが、その達成に向けた教育活動や教育内容の充実に十分に繋がれたとは言えない。職員会議や各部会、全校朝会や集会活動等で教育目標や学年目標を意識させるような機会をさらに増やしていかねばならない。</p> <p>各教師が教育目標の旗印の下、学力と体力と思いやりをもった児童の育成に向け、授業改善や生活指導改善を進めていく。毎日の授業や指導を何のために行っているのかが分かることが教職員のやりがいにつながり、充実した教育活動が実現できると考える。</p>	

研究テーマ		評価
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<p>研究テーマ「自ら求め、はたらきかける子どもを育てる」を達成するため、学年毎に具体的な目標を設定し、授業研究に取り組んだ。</p> <p>「メディア・ICTを効果的に活用して思考力・表現力を育てる」をサブテーマに設定し、教材提示器や大型モニタ、タブレット等を使いながら児童の思考力、表現力の向上に取り組んだ。</p> <p>各学年、各教科の単元の中で、メディア・ICT活用が有効な時間を明確にし、機械があまり得意でない教員でも、苦にせずに活用できるようにした。また、今年も市教委のアクティブラーニング推進の指定をもらい、主体的、対話的、深い学びを達成するため、ICTをどのように活用するのが効果的かを研究した。</p>	<p>今年も年4回の全体研究授業を行い、園田学園女子大学の堀田教授に指導助言をしていただいた。年を追うごとに、全教員の日々の授業や指導に生かされてきている。ICTを「まずは使うこと」、「とにかくたくさん使うこと」を合言葉にして取り組んだが、ある程度、学年差や個人差はあるものの、使うことへのハードルは低くなっている。今後はその差を少しでも小さくするよう、さらに研究を深めていく。</p> <p>研究主任が先進校視察や研究指定校の研究会に参加し、外部の研修会等への参加を薦めてきたが、参加する者が固定化している現実がある。伝達講習をしっかりとすること、なるべく多くの教員が研修する機会をもつよう、計画的に進めていく必要がある。</p>	